

粕谷和夫の観察日記。久しぶりにアカゲラに出会いました。場所は、八王子市川町にある高尾わくわくビレッジの雑木林。コツコツとコナラの幹をつついていました。近くにはエナガ、シジュウカラ等の混群も動き回っていました。

紅葉台



新聞

第114号

2024年

1月27日

発行人：関谷 孝

八王子8福神巡り（後半）

昨年、シニアクラブで八福神の半分4福神を回りました。シニアクラブのメンバーも平均年齢85歳になり、皆さん歩くのが大変になってしまったので、今年は、行かないことになりました。後半はまだ記事になっていないので、一人で取材することにしました。八王子新春の風物詩は「八王子の八福神巡り」。八王子市内にある8つの寺院に祀られた、幸福や繁栄をもたらすとされる神様たちです。七福神めぐりと言っても、八王子では末広がり、八王子の八の字にちなんだ八福神がお出迎えしてくれます。各地でも同じようなことが行われており、「七難即滅、七福即生」の功德があるとされています。



今年、西八王子駅北口から、初めに向かったのは、8福神の吉祥天を祀った吉祥院。一切の災いを転じて吉祥にカエル幸福と美の女神です。ここは、浅川を渡った高台にあります。登るのは

お年寄りにはきついかと思います。高台なのでここからの眺めはいいです。高尾山の遥拝所でカラス天狗も祀られています。夕日が沈む光景はまるで宝船に載った福の神と天狗が酒盛りをしているとの石碑があります。8福神巡りの締めめにふさわしい八王子ならではの所ではないでしょうか。

牡丹寺で有名な寿老尊の宗格院。宝珠格と言われる八角地蔵堂は形が珍しいそうです。小洒落たお堂にたたずむ樹老尊は必見です。もちろん牡丹の季節は見事ですのでそのころにもお出かけください。



甲州街道沿いにある新護弁財天の了法寺。入り口にアニメの聖地のようでキャラクターの看板がありました。それもそのはず弁天様が萌えキャラと親しまれています。右手に宝剣、左手に宝珠を持っているので、芸能や音楽、良縁成就、学業成就等多彩です。



最後は追分町交差点先の走大黒天の善龍寺。「アグレッシブな走大黒点」として有名です。右足を一步前に出した姿は、今にも駆け出しそうです。精巧な寄木造で慈愛に満ちた笑顔が素敵です。



元旦から1月10日までに書き置きご朱印紙を8か所寺集めた人には「八王子七福神めぐり謹製しおり」、8寺院を巡った色紙を持参するとイーアス高尾では、ブランケットを。セレオ八王子では、開運手ぬぐいをもらえるそうです。今年行かなかった方も来年には歩いて回ってみるのいかがでしょうか。全部回ると所要時間約3時

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

福 8福神(2024年)もまわろう 招福の神

八王子ならではの「8」寺院 色紙で「ご利益」7年めくれば「金」に

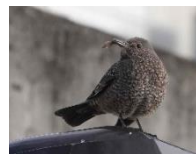


間半です。追記として甲州街道沿いに有名な伊勢谷本店（老舗和菓子屋）があります。1940年代からの営業で団子90円。稲荷100円。饅頭120円。石うすで着いた餅の入ったお汁粉が600円。この近くに行くと必ず寄って買います。安くて美味しいですよ。

粕谷和夫の観察日記



八王子・長池公園のコゲラです。日本で一番小さなキツツキ。「ギーギー」と聞こえる声で飛び回っています。木の幹に巣食う虫を食べているショットです。



イソヒヨドリの子メです。八王子みなみ野 駅前のヤマボウシの実を食べていました。嘴にその一部と思われるものが付いています。



里山を歩いていたら、ウスタビガの繭が眼に入りました。冬枯れの枝先に長い柄がぶら下がる黄緑色のマユで、このマユは、枯葉をマントのように付けていました。冬は上に隙間が空いていて中は空っぽ。秋の終わりが

ごろに羽化した成虫が出た後だ。

♡この写真の繭の所に卵を産み付けています。探してみてください。



この写真は、12月18日に撮ったソシンロウバイです。最近のロウバイは年内に咲きだすようになり、特に珍しくなくなりました。下の写真は、ソシンロウバイの実です。同じ木に花と1年前の実が同時についていました。



エナガはどこで見ても可愛いですね。この写真は、取手・利根川河原のアキニレにシジュウカラとともに群れて餌をとっていたもののうちの1羽です。



羽田空港の隣の城南島海浜公園、スズガモの集団が羽を休めていました。その中にカムムリカイツブリ1羽が混ざっていた姿

が何となくユーモラスでした。